

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 5月21日更新

事務事業名	菊池農業高校後援会活動支援事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	6	産業の健康	所属部	産業振興部	課長名 塚本 健洋
	施策	26	農業の振興	所属課	農政課	担当者名 中元 緑
	施策の柱	70	後継者の育成	所属班	農政班	(内線) 5224
予算科目	会計一般	款 6	項 1	目 5	事業連番 10274	根拠法令
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 29年度で終了 <input type="checkbox"/> 29年度から開始					事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)
成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : ⑥						

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	県下唯一の農業経営者育成高等学校の指定を受け、後援会会則の中で出身市町村は在席生徒数で会費を負担し、後援会活動を支援する。昭和40年、県下唯一の「農業経営者育成高等学校」の指定を受け、後援会組織を立ち上げる。
【業務の流れ】	負担金の支払い事務
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	特に意見や要望は聞いていない。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO)	30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
後援会への活動支援としての会費負担	菊池農業高校後援会への活動支援としての会費負担
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 活動回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
農業経営者育成菊池農業高校後援会	→ ア: 志志市生徒数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
農業就農者の育成を支援してもらう。	→ ア: 卒業生(市内在住者)の就農予定者の割合 %
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠	
卒業生が就農することで、後継者ができ、後援会活動の成果となる。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標	ア	回	6	5	5	6	5	5	5	0	
② 対象指標	ア	人	109	108	100	110	100	100	100	0	
③ 成果指標	ア	%	3	3	3	3	3	3	3	0	
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
			一般財源	千円	35	35	35	35	35	35	35
		(A) 事業費計	千円	35	35	35	35	35	35	35	
		(A)のうち指定経費	千円	35	35	35	35	35	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	2	2	1	3	1	1	0	
	延べ業務時間	時間	12	12	10	20	0	0	0		
	(B) 人件費計	千円	44	0	39	79	0	0	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	79	35	74	114	35	35	35		

事務事業名	菊池農業高校後援会活動支援事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は29年度の事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 学卒後、就農した割合のみならず、県立農大へ進学した者も増えているので、効果は高い。
	②30年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 優秀な農業従事者を得るため、後援会活動の向上余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 農業後継者育成高等学校後援会会則で定められている。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 負担金の支払い事務であり、職員以外での対応ができない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 農業後継者確保のための農業高校の後援事業であり公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 後援会会則の中で出身市町村は在席生徒数で会費を負担し、活動支援をおこなっているので、行政での対応しかできない。

3 評価結果の総括 (CHECK)

有効性については、優秀な農業従事者を得るため、後援会活動向上の余地はある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																					